

ネコの代表的なウイルス病と そのウイルス

1	ネコカリシウイルス感染症	ネコカリシウイルス
2	ネコウイルス性鼻気管炎	ネコヘルペスウイルス
3	ネコ汎白血球減少症	ネコパルボウイルス
4	ネコ免疫不全ウイルス感染症	ネコ免疫不全ウイルス
5	ネコ白血病ウイルス感染症	ネコ白血病ウイルス
6	ネコロタウイルス感染症	ネコロタウイルス
7	ネコ伝染性腹膜炎	ネココロナウイルス

ネコの代表的な腫瘍

1	皮膚癌(メラノーマ、扁平上皮癌、肥満細胞腫)
2	乳腺腫瘍

カリシウイルス口内炎使用例



“インターキャット”投与前



“インターキャット”治療後(7日目)

“インターキャット”の特長

- ネコカリシウイルス感染症に対して効果を発揮します。
- 1日おき3回の注射で、効果的な治療ができます。
- ウイルスの増殖を抑えて病気を治します。
- 早期の投与が効果的です。

‘TORAY’

製造元

東レ株式会社

東京都中央区日本橋室町2-2-1

発売元

人と動物と環境の共生をになう



共立製薬

東京都千代田区九段南1-5-10

ネコのウイルス病治療薬

ネコインターフェロン について



動物用医薬品(要指示) ネコインターフェロン(組換え型)

インターキャット®

Intercat®

◇ ネコインターフェロンってなーに？



インターフェロンとは何だろう？

インターフェロンというのは、1954年にウイルスの増殖を抑える効果がある物質として長野泰一博士らによって発見されたものです。その後の研究でインターフェロンは、動物の身体の中にも存在し、病気に対する自己防衛機能の一つとして重要な働きをしていることがわかりました。

インターフェロンはウイルスを抑制する因子、すなわち「抗ウイルス物質」として発見されたものですが、研究が進むにしたがって、ほかにもいろいろな働きをすることがわかりました。すなわち

1) 抗ウイルス作用 2) 抗腫瘍作用 3) 免疫系への作用の3つの働きです。

さらに、インターフェロンは1種類だけでなく、 α 型、 β 型、 γ 型、 ω 型など、いろいろなインターフェロンが存在するということが判りました。

インターフェロンの3つの働き

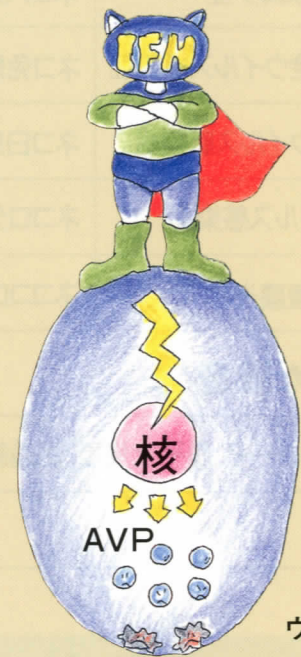
1 抗ウイルス作用

それでは、インターフェロンの「抗ウイルス作用」とはどういう作用をさすのかみてみましょう。

この説明に入る前に、まずウイルスの性質についてふれてみましょう。ウイルスは動物の生きた細胞がなければ生きていけない性状をもっています。細菌と似ていますが、細菌は細胞の外で生きているのに、ウイルスは細胞の内側まで入り込んでしまいます。抗生物質などがウイルスに効果がないのはそのためです。細胞の中に入り込んだウイルスは、その中でタンパクを合成し、新しいウイルスを合成して増えていきます。

インターフェロンは、細胞のある特定の部分に結合し、細胞の機能の中心である核にシグナルを発信します。このシグナルが発信されると、細胞の中に抗ウイルスタンパク(AVP)がつくられます。

このAVPの働きにより、細胞内でのウイルスのタンパク合成が阻害され、ウイルスが抑えられるのです。このようにインターフェロンの抗ウイルス作用というのは、ウイルスを直接殺してしまうのではなく、細胞自体をウイルスが住めないような状態にすることなのです。



2 抗腫瘍作用

次にインターフェロンの抗腫瘍作用および免疫系の作用についてみてみましょう。

図のように、これには二つの働きが考えられます。

一つは①腫瘍細胞のDNA合成を抑制する働き、②腫瘍細胞の分裂を遅らせる働き、③腫瘍細胞のタンパク合成を抑える働き、以上三つの、いわゆる直接作用によって腫瘍を抑えるメカニズムがあります。



3 免疫系への作用

もう一つは、免疫系への作用といいますが、腫瘍にかかっている動物の免疫系(T細胞、ナチュラルキラー細胞、キラー細胞、マクロファージ)にインターフェロンが働きかけ、これらの細胞を活性化させ、腫瘍細胞をやっつけるのです。

